IB DIPLOMA PROGRAMME
PROGRAMME DU DIPLÔME DU BI
PROGRAMA DEL DIPLOMA DEL BI

22052322

JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Monday 16 May 2005 (morning)
Lundi 16 mai 2005 (matin)
Lunes 16 de mayo de 2005 (mañana)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N’ouvrez pas ce livret avant d’y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l’épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

第一部

問題　A

けいたい電話の無い生活も時には新鮮(せん)

大学生　寺田由美

高校の入学祝に両親から けいたい電話をもらった。16 年間、その小さな機械にたよることなく くらしてきた私だったが、いざ持ち始めると、けいたい電話無しには生活できないほど、手ばなせない物となった。

そうした中で、大学に入り、ニュージーランドで約１か月ホームステイをした。ホームステイ先では けいたい電話は通じなかった。人と会う約束(そく)一つするのでさえ、大変だった。日本では、「じゃ、くわしいことは けいたいで……」などと言っていたけれど、その場で具体的に決めてしまわなければならない。約束(そく)の時間にも遅れることはできない。連絡が取れないから、相手に知らせようがないのだ。

少し前の日本なら当り前だったそんな事が、とても不便に思えた。と同時に、人と人との交流の大変さ、密(みつ)接さを感じ、新鮮(せん)な気分にもなれた。けいたい無しの生活は大変貴重(きちょう)な体験になった。

よみうり新聞「気流」2004 年 6 月 8 日

問題　B　　ロボットの魅力は？未来は？

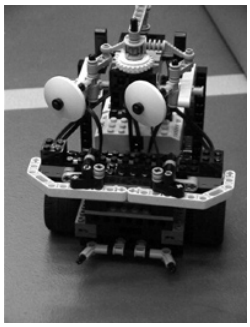
サッカー、ダンス、レスキューの３つの競技でロボット技術を競う「ロボカップジュニア」が全国各地で開かれます。ロボカップジュニアは「2005年までに人間のサッカーチームに勝てる人型ロボットのサッカーチームを作る」というテーマで、ロボットに関する技術を競うプロジェクトです。5月には大阪でジャパンオープンが開かれ、7月にポルトガルのリスボンで開かれるロボカップ世界大会へと続きます。2003年の世界大会（イタリア）では、日本から出場したチームが、ダンス競技で優勝しました。

ロボカップジュニアは、ロボット作りを通じて科学技術を身につけるだけではなく、世界中に友達を作りながら、個人や社会の問題に立ちむかう力を育てることも期待されています。

ロボット工学の専門家、浅田さんに質問しました。

Q　例

A　「人を映す人工物」。人間を理解するための道具であり手段でもある。

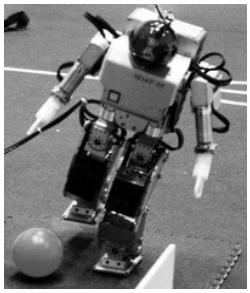


Q　16

A　ロボットをしっかりと意識したのは ごく最近。でも、
プラモデル作りなどは小学校低学年からやっていた。

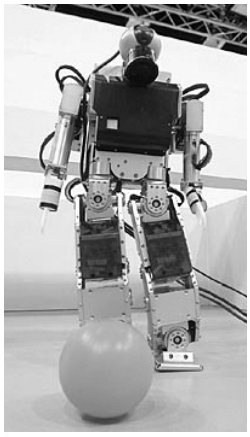
Q　17

A　楽しんで何事にもチャレンジできる気持ちを持ち続けること。
何か新しい物を作ろうという意気込み！



Q　18

A　勝てるくらいにロボットの技術が発展するだろう。
いっしょにやろう！



Q　19

A　ロボット技術はすでに私達の生活に入り込んでいる。
家庭電気製品、車、テーマパークの乗り物などがより進化し、
人間とうまくコミュニケーションできるようになる。

Q　20

A　何といっても人間に にた人工物である点。ロボットを人間に
にせようと思うと、研究には かぎりが なく、いつまでも おもしろい！

をくぐった高橋君は、さっさと何メートルも先を走っていた。そして こうどうの階段上りのリレーに至っては、みんながブキッチョに一段一段やってる時、高橋君の短い足は、まるでピストンのように一気に上りつめ、映画の早回しフィルムのように、降りて来た。結局、みんなが、

「高橋君に勝とう！」

と ちかい合い、真剣にやったのにも かかわらず、全部、一等になったのは、高橋君だった。

〈中略〉

ところで、この運動会の、ごほうびというか、賞品が、また校長先生らしい物だった。なにしろ、一等が「だいこん一本」、二等が「ゴボウ二本」、三等が「ほうれんそう一束」という具合なんだから。だからトットちゃんは、ずいぶん大きくなるまで、運動会のごほうびは、「どこでも、やさい」だと思っていたくらいだった。

〈中略〉

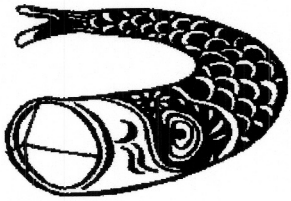
校長先生は この やさいで、晩ご飯を食べながら、家族で楽しく、今日の運動会の事を話してくれたらいい、と思ってたかも知れない。そして、特に、自分で手に入れた一等賞で、食卓があふれた高橋君が、「その喜びを覚えてくれるといい」。せが のびない、小さい、という肉体的なコンプレックスを持ってしまう前に、「一等になった自信を、忘れないでほしい」と校長先生は考えていたに違いなかった。そして、もしかすると、もしかだけど、校長先生の考えたトモエ風競技は、どれも高橋君が一等になるように、出来ていたのかも、知れなかった……。

黒柳徹子　「窓ぎわのトットちゃん」より

問題　C

トモエ学園の運動会

こいのぼり



ところで、トモエ学園は ずいぶん いろんな事が、普通の学校と違っていたけど、運動会は、とりわけユニークな ものだった。普通の小学校と同じものは、つな引きと、二人三脚くらいのもので、あとは全部、校長先生の考えた競技だった。それも、特別な道具を使うとか、大げさなものは、なに一つ無く、すべて、学校にある おなじみの物で、間に合った。

例えば、「こいのぼり競争」というのは、出発点からヨーイドン！で、少し走って、校庭の真ん中に おいてある、というか、寝ている、大きい ぬののこいのぼりの、口から入って、しっぽから出て、また出発点まで帰って来る、というのだった。こいは、青い色が二匹と赤いのが一匹で、合計三匹いたから、三人が同時にヨーイドン！で出発した。でも、これは易しいようで、案外難しかった。というのは、中に入ると、真っ暗で、胴体が長いから、しばらくゴソゴソやってるうちに、どっちから入ったのか分からなくなって、トットちゃんみたいに、何度も、こいの口から顔を出して外を見ては、また、急いで中に、もぐっていく、という風になってしまうからだった。これは見ている子供達にとっても、面白かった。というのは、中で だれかが ゴソゴソ行ったり来たりしていると、まるで、こいが生きてるように見えたから。

〈中略〉

さて、運動会が始まって、おどろく事が起こった。それは、どの競技も（たいがい全校生徒がいっしょに やるのだけれど）、学校で、一番、手足が短く せの小さい、高橋君が一等になっちゃうことだった。それは本当に信じられないことだった。みんなが、モゾモゾしてるこいのぼりを、高橋君はササッ！と通りぬけてしまったし、はしごに、みんなが頭をつっこんでるころ、すでにはしご

第二部

新聞記事です。

「食」をテーマに手軽に省エネ

「省エネ」といえば「節約」「がまん」「手間がかかる」というイメージで、なかなか長続きしないもの。毎日の くらしの中で手軽にできる省エネを、「食」をテーマに探ってみました。

アドバイスしてくれたのは、「省エネルギーセンター」の係員、北間さん。「省エネには勤めているつもり」と言う増田さんに協力してもらいました。

まずは、買い物。食料品を買う時のポイントは、なるべく旬の（注１）物を買い、地元産の材料を選ぶことだと北間さんは言います。「冬のトマトづくりは、夏のトマトづくりの 10 倍エネルギーがかかっていると言われます。また、地元のやさいを選ぶことで輸送にかかるエネルギーを減らすこともできます。」

食生活にかかるエネルギーで多くをしめるのが冷蔵庫。でも、冷やさなくてもいい物まで つめこんでいると、エネルギーを無駄に使うことになります。

調理の時にも ひと工夫。電子レンジで下ごしらえすれば、ガスコンロの使用を減らすことができます。食事も、なるべく家族そろって とるようにすれば料理を温め直すエネルギーが かかりません。

北間さんに電化製品が消費する電力をはかる機械で保温中の電気炊飯器をはかってもらうと、72W 。「長時間保温するより２度たいたほうが節電できます」と北間さん。電化製品は使っていなくてもコンセントを入れているだけで電力を消費します。最新の電化製品は消費電力が少ないと聞き、「買いかえようかしら」と、増田さん。北間さんの返事は「それは考えもの。まだ使える物をごみにしてしまいますから」。

北間さんが言うには、「ちょっとした工夫やいつもの習慣を変えることで、時間も手間もエネルギーも減らすことができます。」

注１：　旬の ＝ その季節の